

多剤耐性菌について（一般の方向けの情報）

（多剤耐性アシネトバクター、NDM-1産生多剤耐性菌についての情報）

多剤耐性菌とは

多くの抗菌薬（細菌による感染症の治療に使用される医薬品）が、効かなくなった細菌のことです。

多剤耐性アシネトバクター

- ・アシネトバクターは、土壌中やヒトの腸内に広く生息する、環境菌の一つであり、院内感染症や日和見感染症などの原因となる可能性はあるが、健常者に病気を引き起こすことは極めてまれ。

NDM-1産生多剤耐性菌

- ・NDM-1産生多剤耐性菌は、大腸菌や肺炎桿菌などの「腸内細菌科」の菌で確認されている。
- ・大腸菌は一般の健常者の腸内に又、肺炎桿菌は口腔や腸内に生息する常在菌である。
- ・大腸菌や肺炎桿菌は、抵抗力の弱い患者で、院内感染症や日和見感染症などの原因となる他、健常者でも、尿路感染症などを引き起こすことがある。

一般的なポイント

- アシネトバクターなどはヒトの腸内などに普通に存在する細菌であり、健康な方の体の中に入ったり、皮膚や粘膜の表面についたりするだけでは、病気になることはありません。
- しかし、病院に入院中の方など、体の抵抗力が落ちている方が感染すると、まれに発病することがあります。
- その場合には、抗菌薬による治療が行われますが、多剤耐性菌に感染すると、抗菌薬が効かないため、治療が難しくなります。
- 特に病院内における感染対策が重要視されているのは、そのためです。
- 多剤耐性菌といっても、もともとの細菌と感染力や病気を起こす力は変わらないので、家庭内に高齢者や乳幼児が居るからといって、過剰に対応する必要はありません。
- 手などを通じた接触感染が、主な感染の経路となりますので、やはり手洗いは重要ですし、アルコール系など、一般的な消毒薬が有効とされております。